

「活きるちから」「育むちから」

「想うちから」をひなぐり野じへん



多良木町長
吉瀬 浩一郎

はじめに

令和3年5月より新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）ワクチンの集団接種が開始され、この約2年間は、ワクチン接種をはじめとした感染症への対応に明け暮れた感があります。感染症拡大により会議や学校行事、地区ごとの集まりも一部自粛され、コミュニケーションの場が途絶えてしまった状態が約2年間続きました。私たちにとって、この期間は感染症拡大による「地域における文化の停滞の時代」として忘れられない時代となりました。

行政の役割は災害や感染症から、住民の皆さんの生命を守ることに第一に挙げられます。まだ油断できない状況ですが、徐々に元の経済の循環を取り戻していかなければならないと考えています。

農業への支援

ウクライナ侵攻のあおりを受け、国内でもガソリン・食料品・日用品などの物価全般が高騰しています。農家の方々においても、飼料、肥料、農薬、燃油などの価格が急上昇し、厳しい経営状況が続いています。

令和4年度は多額の支援をすることで農業経営の継続を図りました。今後も、国・県からの財源を駆使し、農業資材等の高騰に対応した必要な措置を講じていきたいと思えます。

また、担い手対策として、農業者の高齢化や担い手不足による地域農業の維持も課題であり、持続可能な地域農業の実現には、多くの皆さまの力が必要不可欠と考えています。

令和5年度は、農地利用の議論を深めていくスタートの年と位置付け、認定農業者や広域農業法人、新規就農者への支援も引き続き行います。

また、多様な担い手の育成も視野に入れ、農地集積や明確な営農意欲と展望を持った農業者への支援をする必要があると考えています。

昨年、長野県小諸市で開催された「第24回米・食味分析鑑定コンクール国際大会の都道府県・海外地域お米選手権」で本町のお米が金賞を受賞しました。



国際大会の表彰式

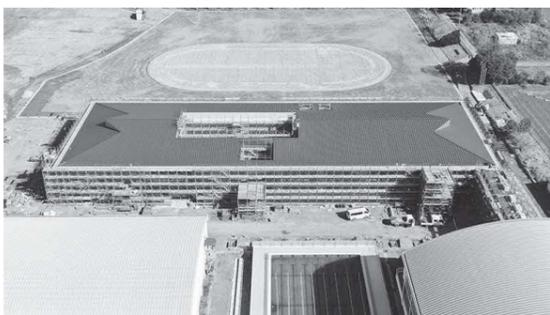
この取組は、他の農産物にも良い影響を与え、地域経済を高揚させる波及効果に繋がります。

農地整備では、第二多良木地区水利施設等の保全高度化事業の工事および鮎之瀬地区

多良木中学校の整備・教育

消耗品の購入など、感染防止設備導入等補助金を交付してきました。今後とも商工業者の皆さまを支えるべく努力していきます。

広大な緑のダムである森林を育てる林業従事者の皆さまには、時代の要請に沿った、今の時代に無くてはならない重要な役割を担っていただいています。令和4年度の事業として、令和2年7月豪雨災害の災害復旧工事を実施していましたが、台風14号による新規災害などにより、発注工事は一時的に中止され、結果として、令和4年台風14号災、林道災害10本が発生しました。また、主伐地の架線集材を試験的に開始するとともに、引き続き、町と森林所有者間で委託契約を締結し、個人所有者にて管理が難しい森林を町により施業を行う森林経営管理制度への取組を行っています。また、森林環境譲与税を活用し、伐採跡地の林地残材について、端材を含めて搬出しチップ化する補助事業や作業道補修補助を創設し、多良木中学校の新校舎建具の木製化を促進しました。



建設中の校舎（R5年2月末）

多良木高校跡地に建設が始まった校舎は長さ約90m、横幅約30mの2階建てで建設中です。現在、体育館も外装を整え、プールにも水が張られ美しい姿を見せています。校舎から見渡すグラウンドとともに、素晴らしい景観になると感じさせられます。

了の瞬間が少しずつ近づいています。皆さまと共に大いなる喜びとして共有したいと思えます。

感染症対策として、全学校に二酸化炭素濃度測定器の設置、ならびに小学校施設に水道蛇口の自動水栓化を行っています。また、IT人材育成事業に関する協定を締結した株式会社ディー・エヌ・エー（以下、DeNA）によるプログラミング授業やキャリア教育を開始しました。この事業は3年目を迎え、一般財団法人たらぎまちづくり推進機構（以下、たらぎ財団）から学校教育係が引き継ぐ形で、実施を継続していきます。そして、熊本大学ならびに熊本大学教育学部附属小・中学校とは、継続して研究協定を締結しています。教師のスキルアップと授業内容の改善などに取り組み、全教科の水準を上げていきます。

これまでオンライン英会話は小学6年生、中学2年生が対象でしたが、昨年より中学1年生も対象としました。この目的は、英語力の習熟に力を注ぎ、都市部の子どもたちとの地域間格差を埋めることを目標としています。今後と

も、子どもたちの英語力の強化を図っていききたいと思えます。

社会教育関係の事業としては、体育協会活動、生涯学習講座、文化協会活動、青少年育成会議、スポーツ推進委員活動、人権教育など多くの事業を行いました。上・中球磨4町村主催の「第一回奥球磨駅伝競争大会」は、多良木町役場前をスタート・ゴールとして開催され、陸上競技界で大きな話題となりました。本年も、個々の事業のレベルアップを図りながら、住民の皆さんの「体力」と「智力」の向上に努めていきます。

サステイナブルな観光へ

感染症の影響により、行動様式・生活様式・働き方は変化し、旅行者の意識も大きく変わりつつあります。最近の旅行業の調査で「異文化理解と文化遺産の保護」「旅先で本物の文化を体験したい」という意識が高いことが特徴付けられています。また、慌ただしく旅をするのではなく、ゆっくりとした時間の中で地域の自然や文化に触れる、

「量」から「質」へ転換したサステイナブル（持続可能）な旅へのサービスが求められるようです。本町の場合、RKKの「水曜だけど土曜の番組」で放映されたブルートレインや妙見野自然の森展望公園、文化財が良い例です。

観光事業の指標の一つは、ブルートレインの宿泊客数を伸ばすことです。令和4年度の宿泊実績は、ようやくピーク時の7割まで回復しました。車両そのものの稀少価値は時間が経てば経つほど価値が高まり、それに魅了される観光客が多いのも事実です。これを「長期滞在」へと繋げることが重要で、今後も宿泊数を伸ばす施策を展開していきます。また、サステイナブルな旅で重要な「本物の文化体験」とは、青蓮寺や東光寺をはじめとする歴史文化遺産です。多良木相良氏関連遺跡群の国史跡指定へと目指す事業は、令和4年度の発掘調査でようやく歴史的価値を説明するに足る素材を獲得しました。その中には、武家文化発祥の地「鎌倉」に残された史跡以外では本町の史跡にしか現存しない貴重な遺跡も確認されています。



伝頼景館跡の発掘調査

安全を守る防災対策

令和5年度はその成果をまとめ、「本物の価値」を持つ歴史文化を適切に保全するとともに観光事業へと昇華させる施策を継続していきます。

企画部門では、感染症対応地方創生臨時交付金に関する各課38件の事業を国に申請しました。主な事業として、生活応援臨時給付金事業、マイナンバーカード申請・交付事業、災害時の避難者用トイレ整備事業、施設園芸燃油高騰特別対策事業などが挙げられ、引き続き国の交付金を活用し課題解決に注力していきます。

防災については、引き続き「地区防災計画作成」研修会を行い、未作成の8行政区を完了し、全行政区の「地区防災計画」完了を目指します。昨年度は、防災士の皆さんと地域のリーダー約70名が参加され、「自主防災組織等リーダー育成支援事業研修会」を行いました。本町では防災のリーダー・指導者として防災士の皆さんに大変お世話になっていきます。会員の方々を増やすべく防災士の資格取得にかかる助成を予算化します。また、各種研修に力を入れていきたいと思っています。

高齢化により、よりスムーズな避難移動を可能とするため、町民体育館の玄関入り口を全スロープ化し、女性の視点を加えた避難用の備蓄倉庫を新たに設置しました。また、宇宙ランドとブルートレインの間にある芝生部分に、災害発生時の車中泊を想定し、それに対応できるシャワー室を備えた防災トイレを整備しました。生活様式の変化に伴い避難所も対応すべく、町民体育館と武道館の和式トイレを洋式化しました。さらに黒肥地

小学校体育館横にマンホールトイレを整備しています。球磨川沿いの浸水想定区域内にお住まいの皆さんには、消防団員による「各戸訪問」を行い、早期の避難を促し、災害が起こる前に安全な場所へ移動するよう周知します。

令和5年度も、想定される予測不可能な災害から皆さんの「安全を守る」という使命感を持ち、防災対策に努めたいと考えています。

暮らしやすい町を目指して

本町とあさぎり町を結ぶ主要道である「町道中島線改良工事」が大きく進捗しています。交通安全対策の観点と、須恵、深田地区からの誘客も考慮し、2車線化、直線化への拡幅改良工事を行い、令和7年度完成をめどに工事を進めています。また、通学道路となっている国道と久米(覚井)地区を結ぶ「町道口の坪覚井線改良工事」では、子どもたちが安全に通学できるよう拡幅改良工事を令和6年度完成をめどに行っています。その他「町道小田線局部改良工事」、「町道蓼田小林線改良

工事」、「町道迫田野添線改良工事」、「馬門宮ヶ野線」および「向原大豊町線」の舗装打替工事を進めています。このほか、県道の改良要望を行い、現在「県道吉水上線」の道路拡幅工事が開始されています。また「県道中河間多良木線」は、地元の方々、県、町で協議検討を行いながら改良を行っています。

町営住宅では、令和5年度から令和8年度までの整備計画期間において計12戸の戸建て、1棟2世帯住宅などを整備する予定です。また、家庭における断熱対策などのため、「住宅リフォーム事業」の補助枠を拡大していくことになりました。

たらぎ財団の活動

人材育成事業では、DeNAと連携し、小・中学校で、DeNAの社員が子どもたちにプログラミングを使つた授業を実施しています。また、教職員へのIT支援や子どもの職業感の醸成に繋がる講義を行っています。さらに、小・中学生を対象に「たらぎクリエイティブキャンプ



プログラミングを学ぶ子どもたち

多拠点居住サービスを全国で展開している株式会社アドレスと連携した事業では、アドレス会員によるイベントを開催することで、関係人口を増やし、地域に関わる方々の人材育成に繋いでいきます。2021年8月に包括連携協定を締結した熊本県立大学

は、子どもたちと一緒に地域の魅力を動画にまとめ、発信する事業を実施し、子どもたちのITスキルの向上を目指します。その他、一般社団法人熱意ある地方創生ベンチャー連合とドローンの資格取得を目的とした事業、熊本市内のIT企業と合同でゲームクリエイター講座などを実施しました。今後も、地域のIT人材育成を目指しています。

商品高度化事業では、休校中の宮ヶ野小学校を活用し、ドレッシングやジビエ野菜スリーブの開発、都市部のレストランからの製造業務の受託など、地域内外からの商品製造を始めます。



地域内外でPR活動

加工事業以外では、オンライン料理学習サービスや東京都青山にあるフレンチレストランのオーナーシェフに、本町のジビエ肉を活用したレシピを考案していただきました。今後は、「旅するおむすび屋」という全国各地で活動される方を招き、お米やその他の地域産品をSNSなどで情報発信し、PR促進を図る事業を行う計画です。その他、「秋のたらぎまつり」「冬のたらぎまつり」、マルシェなどを開催、地域の賑わい創出に繋がっています。

ふるさと納税事業では、全国の方々に本町をPRし、本町を応援していただきます。返礼品は今年度だけで200品目以上を開発しました。また、ふるさと納税のポータルサイトも増やし、沢山の方々に本町の産品を知っていただくことに注力しています。たらぎ財団は、地道な活動が多く、短い期間での成果が見えにくい事業ですが、徐々に成果をあげつつあります。今後も財団の活動を温かい目で見守り、育てていただきたいと思います。

マイナンバーカードの推進

マイナンバーカードを利用した住民サービスの向上については総務省が推進していますが、皆さんの協力で申請率・交付率ともに県下第一位(3月26日現在)となりました。このことは交付税の算定に反映されると思いますので、皆さんの生活全般にも良い影響が及ぶと考えています。

マイナンバーカード交付率 熊本県ランキング		
1位	多良木町	82.42%
2位	苓北町	80.65%
3位	水上村	76.58%
R5.3.26現在		

将来的には証明書の発行などを閉庁時でも発行できるように一部移行できればと考えています。また、カードを窓口で提示すれば、申請書を書く作業がなくなるなど業務の簡素化を図ることも可能となりますので、そのようなシステムの構築を目指したいと思います。

今後も、きめ細かな住民対応を行い、皆さんがマイナンバーカードを使いこなすことができるよう普及に努めていきます。また、デジタル田園都市国家構想交付金事業では証明書発行業務を対象に事務手続き負担軽減と、コロナ禍での非接触型のサービスも併せて実現することを目指しています。デジタル社会における恩恵を、すべての皆さんが享受できるように住民サービスの実現を目指すとともにマイナンバーカードの普及を促進していきます。

えびすの湯の今後のあり方

平成8年11月に開館し26年が経過する「えびすの湯」は、毎年約4千万円を超える赤字で苦しい経営を強いられています。これまで、職員からなる「庁舎内検討会議」を組織し、さまざまな意見を集約してきました。現在、諮問機関として「まちづくり推進委員会えびすの湯専門部会」で協議をしていただいています。

えびすの湯は、冷水を電気で温めて使用しているため光熱水費に莫大な経費がかかります。

さらに電気代の高騰が予想されるため、より一層厳しい経営環境が想定されます。来館者も令和元年と令和3年を比較すると、一日で約100名の減少があり、それに伴い収入も減少しています。昨年の6月から7月にかけて住民の皆さんのご意見を伺うべく実施した「えびすの湯」に関するアンケートではさまざまなご意見をいただきました。これから「まちづくり推進委員会えびすの湯専門部会」で充分議論していただき、町はその結果を尊重しながら今後の方針を探っていきたくと考えています。

今後も職員と一体となり、住民の皆さまの付託にお答えすべく、「活きるちから」「育むちから」「想うちから」をつなぐ町づくりに取り組んでまいりますので、令和5年度もどうぞよろしくお願い致します。

令和5年3月7日
多良木町長 吉瀬 浩一郎